

令和5年度教育研究活動報告書

氏名	林 直樹	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（経済学）	職位	教授
専門分野	経済学史・社会思想史		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	社会思想史、外国書購読Ⅱ、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰa、専門演習Ⅰb、専門演習Ⅱa、専門演習Ⅱb、特別演習Ⅳ、特別演習Ⅴ、特別演習Ⅵ、経済学史、日本経済論
大学院	経済学史特論、研究指導（論文指導）Ⅰ、研究指導（論文指導）Ⅱ
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）イングランド啓蒙：確率論を軸として	
（2）経済学史・思想史研究へのテキストマイニング技術の応用	
（3）日本および世界の社会経済思想史	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R5・R4・R3	
R5	<p>〈論文〉 Binomial Theorem and Social Thought、単著、尾道市立大学経済情報論集23巻2号、5-12頁、2024年2月</p> <p>〈論文〉 テキストマイニングで作る人物関連図、単著、尾道市立大学経済情報論集23巻1号、83-100頁、2023年6月</p> <p>〈書評〉 野原慎司『人口の経済学：平等の構想と統治をめぐる思想史』、単著、イギリス哲学研究47号、2024年3月予定</p> <p>〈発表〉 Adam Smith on Textmining、International Adam Smith Society Tokyo Conference、2024年3月12日</p> <p>〈発表〉 Binomial Theorem and Social Thought、Research Conference among NCYU and OCU、2023年8月24日</p>
R4	<p>〈論文〉 バイズ「偶然論における一問題の解法」(2)、単著、尾道市立大学経済情報論集22巻1号、35-78頁、2022年6月</p> <p>〈事典〉 イングランド啓蒙、単著、『啓蒙思想の百科事典』丸善出版、102-103頁、2023年1月</p>
R3	<p>〈論文〉 社会思想史研究とテキストマイニング、単著、愛知学院大学論叢.経済学研究9巻2号、107-126頁、2022年3月</p> <p>〈論文〉 バイズ「偶然論における一問題の解法」(1)、単著、尾道市立大学経済情報論集21巻1号、69-108頁、2021年7月</p> <p>〈書評〉 柘植尚則『近代イギリス倫理思想史』、単著、マルサス学会年報31号、73-77頁、2022年3月</p>
R2以前の主な研究業績	
（1）〈著書〉 デフォーとイングランド啓蒙、単著、京都大学学術出版会、2012年6月	
（2）〈論文〉 ミシシッピ・バブル後のプリテン：ジョン・ロー来訪をめぐる信用論争、単著、坂本達哉・長尾伸一編『徳・商業・文明社会』京都大学学術出版会、2015年3月	
（3）〈論文〉 「ウッドの半ペンス」再考、単著・査読有、マルサス学会年報28号、35-65頁、2019年3月	
（4）〈翻訳〉 ロバートソン『啓蒙とはなにか』白水社、野原慎司との共訳、2019年3月	
（5）〈事典〉 言語起源論、単著、『社会思想史事典』丸善出版、200-201頁、2019年1月	
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R3・R4・R5	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
経済学史学会（幹事、兼、大会組織委員【任期2023.04-2025.03】）、社会思想史学会、日本イギリス哲学会、マルサス学会、経済社会学会、史学会、中四国商経学会、International Adam Smith Society	